



一期一会と未来に託された想い

中村 嶺治

一期一会。私はインドネシア研修を通して、人々との出会いと交流が、自分自身、そして世界をも変える力を持っていると強く感じた。

日本とインドネシア、それは約 6000 km も離れた、文化も言葉も全く異なる国同士。また、過去には第二次世界大戦にて争ったという歴史を持つ。しかし、現在に至るまでの友好関係が保てているのは、日本人の先人と現地の人々との交流、そして、MRT 等の国境を越えた協力のおかげだと考える。研修二日目の午後、私たち研修生は MRT の工事現場内部を視察した。そこでは汗を一緒に流して働く日本人と現地の方々がいた。互いに協力し合い、そして何より工事現場には笑顔が絶えなかった。そこで私は、実感した。個々の信頼関係が国際協力の原動力であることを。この人たちの” 出会い ” が世界を繋げているのだと感じた。

それだけではない。三日目に伺ったカリバタ英雄墓地では終戦後もインドネシアに残留し、インドネシア独立戦争に協力した残留日本兵の方々のお墓に献花した。1000 人の残留日本兵の方々は自らの意思で異国の地に残ることを決め、独立のために身を投じて協力をしたのだ。彼らの意思が一国の独立の一助となり、そこで生まれた現地の人々との交流は今も受け継がれ、そして現在は英雄として異国の墓地に眠っている。

つまり、私の言いたいことはこうだ。一見、小さな出会いであっても、それは一期一会であり、今と未来をつなぐ架け橋になる。そして今、私たち研修生はこの研修を通してかけがえのない 14 人の仲間、尾木直樹先生、JICA 職員の方々、現地の人々に会えることができた。次は私たちの番だ。私たちの出会いに託された想いを未来につなげ、平和と信頼のある世界のために身を投じて尽力したい。